

## 日本とヨーロッパの昔話 第4回講座終了後に受けた質問への回答

3月22日（日）に行われた「日本とヨーロッパの昔話」第4回講座に対していただいた質問の回答を以下掲載します。

皆様からいただいた質問は、個人情報等を抜いたうえで、質問にあたる部分だけ抜粋し掲載しています。また、一部表現などに手を入れさせていただいている場合がありますのでご了承ください。

---

### 【伊藤明美先生への質問】

**質問** 素敵な語りありがとうございました。先生が再話されたお話しテキスト（手に職があれば）を手に入れることはできますか？ 又は今後出版されるご予定はありますか？

**回答** おはなしを聞いてくださり、ありがとうございます。「手に職がなければ」は、『世界の民話20 コーカサス』小澤俊夫編・訳 ぎょうせい収録されているお話です。巻末の解説では、ロシア連邦共和国のカバルド族の話となっています。

専門コースで語るにあたっては、著作権について版元に確認して行いました。が、再話した原稿を出版する予定はありません。

（伊藤）

### 【誰が回答してもかまわない・全講師に宛てた質問】

**質問** 講義を受けていて、まだまだ知らない話がたくさんあることを痛感しました。

そこで、グリム童話、できればアンデルセン童話も、「全話を知るには、日本ではこの出版社から出ているこの本がいい」というおすすめの本がございましたら、お教えいただけると幸いです。

また、原題、英語タイトル、日本語タイトルを、見比べたいと思っており、これが併記されている本または論文をご存知でしたら、お教えいただけるとありがたく存じます（そういったものがなさそうでしたら大丈夫です）。

**回答** グリム童話のおすすめの本については、第1回の質問で間宮先生が以下のように回答していますので参考にしてください。また、間宮先生からは補足もいただいたので、そちらも掲載します。

私（間宮）は大学の授業では以下のものを勧めています。

小澤俊夫訳『完訳グリム童話—子どもと家庭のメルヒェン集—』I II ぎょうせい 1985年

小澤俊夫監訳／小澤昔ばなし研究所再話『語るためのグリム童話』全7巻 小峰書店 2007年

金田鬼一訳『完訳 グリム童話集』全5冊 岩波文庫 1979年（改版）

関敬吾・川端豊彦訳『完訳 グリム童話』I II III 角川文庫 1999年（復刊）

高橋健二訳『グリム童話全集』全3巻 小学館 1976年（文庫版は全5巻）

野村滋訳『完訳 グリム童話集』全7巻 筑魔書房 1999年

**【補足】グリム童話の翻訳：**

グリム童話第2版（1819年、全161話）の翻訳

小澤俊夫訳『完訳グリム童話—子どもと家庭のメルヒェン集—』I II ぎょうせい 1985年

小澤俊夫監訳／小澤昔ばなし研究所再話『語るためのグリム童話集』全7巻 小峰書店 2007年

〔上記『完訳グリム童話』を底本とした、「語るため」の「再話グリム童話集」。第7版（1857年）所収の話も収めるが、全200話の「完訳」ではない。〕

グリム童話第7版（＝グリム兄弟生前の最終版、1857年、全200話）の翻訳

金田鬼一訳『完訳 グリム童話集』全5冊 岩波文庫 1979年（改版）

関敬吾・川端豊彦訳『完訳 グリム童話』I II III 角川文庫 1999年（復刊）

高橋健二訳『グリム童話全集』全3巻 小学館 1976年（文庫版は全5巻）

野村滋訳『完訳 グリム童話集』全7巻 筑魔書房 1999年

アンデルセンについては、伊藤先生より以下の回答がありました。アンデルセン童話は創作童話なのでグリムと読み比べてみると違いがよくわかると思います。

アンデルセンの翻訳について

童話集であれば以下を推薦しています。

大畑末吉訳『アンデルセン童話集 完訳』全7巻 岩波書店 1981

高橋健二訳『完訳 アンデルセン童話集』全7巻 小学館 2010

大塚勇三訳『アンデルセンの童話』全4巻 福音館書店 1992

矢崎源九郎訳『アンデルセン童話集』全3巻 新潮社 1952-53（図書館で探してください）

ドイツ語、英語、日本語タイトルが併記されている資料についてですが、例えば以下の文献があります。

下宮忠雄編著『グリム童話・伝説・神話・文法小辞典』同学社、2009年

これは一覧ではなく、本書の最後にグリム童話のドイツ語タイトルがアルファベット順で並んでいて、そこに日本語タイトルが出ています。そこから、その話の項目を見に行くと英語タイトルも見ることが出来ます。

また、間宮先生からは David Ashliman によるドイツ語と英語タイトルが併記されているサイトの紹介がありました。

<https://sites.pitt.edu/~dash/grimmtales.html>

英語と日本語タイトルは訳者によって変わってくるので注意が必要です。なお、下宮が使っているのは1853年

に Routledge から出た英語版グリム童話集です。

(小林)

**質問** ブレーメンの音楽隊がグリム童話 20 番の話と表記することはありますか？

平凡社の世界大百科事典で「ブレーメンの音楽隊」を調べたところ、小澤俊夫先生のお名前で「《グリム童話》20 番の話」と記載がありました。「勇敢な仕立屋」を調べてみたところ、こちらも「グリム童話 20 番の話」となっていました。

ブレーメンの音楽隊が 20 番目の話とすることもあるのでしょうか？百科事典の間違いなのでしょう？(この件について、昨年 8 月と今年 4 月に平凡社に質問を送ったのですが、まだ返信がありません。)

調べたのはこちらの事典です。

1 世界大百科事典改訂新版 25(フハ-ヘン)2009

:グリム童話 20 番の話となっています

2 世界大百科事典 25(フハ-ヘン)1988

:グリム童話 20 番の話

3 平凡社大百科事典 13(フハ-マキ)1985

:グリム童話 20 番の話

このように、123 の小澤俊夫解説「ブレーメンのおんがくたい」がいずれもグリム童話 20 番目となっています。

平凡社「改訂新版 世界大百科事典」を出典とする「コトバンク」でも、20 番となっています。

<https://kotobank.jp/word/%E3%81%B6%E3%82%8C%E3%83%BC%E3%82%81%E3%82%93%E3%81%AE%E9%9F%B3%E6%A5%BD%E9%9A%8A-3168205>

さらに遡って古い事典も調べてみましたが、妹尾幹解説のものは第 27 話となっていました。

4 「世界大百科事典 27」(フワーヘワ)1981

ブレーメンのおんがくし:「第 27 話」(妹尾幹)

5 「世界大百科事典 27」(フワーヘワ)1972

ブレーメンのおんがくし:「第 27 話」(妹尾幹)。

6 「世界大百科事典 25」(フクターヘイキ)1958

ブレーメンのおんがくし:「第 27 話」(妹尾幹)

ずっと疑問に思っていたため、ご回答いただけるとありがたく思います。

**回答** 「ブレーメンの音楽隊」はグリム童話 27 番です。平凡社『世界大百科事典』と、「コトバンク」に収録された平凡社『改訂新版 世界大百科事典』で、「ブレーメンの音楽隊」が「グリム童話 20 番の話」とあるのは間違いです。なにかの手違いで 20 番になってしまい、その誤植に気づかぬままきってしまったのだと思われます。グリム童話 20 番は「勇敢な仕立屋」です。

グリム童話については、高木昌史編著『決定版 グリム童話事典』（三弥井書店、2017年）がお勧めです。

(間宮)

**質問** 『国際昔話話型カタログ』索引 2084 ページ 上から 17、18 行目。「ことが約束される 25A」とありますが、425A ではないでしょうか？数字の 4 が抜けているようです。

**回答** ありがとうございます。ご指摘のとおり、425A です。ウター先生のオリジナルも確認したところ 425A ですので、こちらは誤植です。ご指摘ありがとうございました。

(加藤)

**質問** 「豆太郎」について。グリム童話からの翻案かどうか。研究論文はありませんか？ 『日本昔話通観 24 長崎 熊本 宮崎』のモチーフ構成に親指小僧とあるので、グリム童話と比較してみました。豆太郎は語りやすい長さになっていますが、グリムと比べると面白みが減っていると感じます。日本に置き換えると、話に無理があるようにも感じました。

**回答** 豆太郎、グリムの親指小僧の関係を述べた研究があるかわかりません。間宮先生からは、以下の文献が参考になるのではということでした。ただし、目次には「親指小僧」は出てないそうです。

久保華誉著『日本における外国昔話の受容と変容 和製グリムの世界』三弥井書店、2009年

あるいは以下の論文は親指太郎を扱っているので、もしかしたら言及されているかもしれません。いずれも国会図書館にあります。

<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I3983711#bib>

<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I11019604>

以上となります。

(小林)